

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/22

ドル・ユーロ・円の「三すくみ」

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	米追加緩和で株高なら上昇も 予想レンジ: 108.50 ~ 111.80円	2 - 3
ユーロ/ドル	➡	米・欧の景気減速懸念 予想レンジ: 1.4200 ~ 1.4530 ドル	4 - 5
ポンド/円	➡	株価睨みの展開 予想レンジ: 124.50 ~ 129.00 円	6 - 7
ポンド/ドル	➡	バーナンキFRB議長の発言内容は? 予想レンジ: 1.6250 ~ 1.6750 ドル	8 - 9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 8/15~19までの主な推移



<p>8/15 Monday</p>	<p>独首相報道官が「16日の独仏首脳会談でユーロ圏共同債は議題にならない」との見解を示すと、欧州ソブリン問題の早期解決に向けた期待が剥落しユーロ売りが優勢となり、ユーロ/円は109.63円まで下落した。しかしその後、NYダウ平均株価が堅調に推移する中、欧州中銀(ECB)が、先週の国債買い入れ額が220億ユーロに上ったと発表。昨年5月のプログラム開始以来最大規模の買い入れとなった事を好感して、ユーロ/円は110.99円まで上昇し、翌16日早朝には111.01円の高値を付けた。(①)</p>
<p>8/16 Tuesday</p>	<p>独第2四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比+0.1%と予想(同+0.5%)を下回る伸びにことどまった事を受けて、ユーロ圏第2四半期GDP成長率は前期比+0.2%と前期の+0.8%から大きく減速した。これを嫌気して欧州株が下げ幅を拡大した事もあってユーロ/円は110.09円まで下落。その後、独仏首脳会談後の共同会見で、サルコジ仏大統領が「ユーロを防衛する決意で独メルケル首相と一致」「ユーロ圏共通のガバナンスを提案する事で独首相と合意」などと述べた事を受けてユーロ/円は110.97円まで上昇したものの、続けて「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の規模拡大は現時点で必要ない」と発言し、独メルケル首相が「ユーロ圏共同債は危機解決につながる」と述べた事を受けてユーロ/円は110.30円まで反落した。(②)</p>
<p>8/18 Thursday</p>	<p>スイス中銀(SNB)が為替スワップを使って流動性を供給しているとの観測からスイスフラン売り・ユーロ買いが強まった事や、欧州中銀(ECB)がイタリアとスペインの国債を購入しているとの観測からユーロ/円は110.71円まで上昇した。しかしその後、米8月フィラデルフィア連銀景況指数が市場予想よりも大幅な悪化となった他、米7月中古住宅販売件数も予想を下回った事を受け、NYダウ平均が一時520ドル超下落すると、ユーロ/円は109.25円まで下落した。(③)</p>
<p>8/19 Friday</p>	<p>アジア株が軒並み軟調に推移した事を受けてユーロ/円は売り優勢の展開となった。さらに欧州株が安く始めると109.01円の安値を付けたが、レーン欧州委員が「欧州連合(EU)は欧州共同債で法案を作成する可能性がある」と発言した事や、サルガド・スペイン財務相が「スペイン政府は債務目標達成のための追加緊縮財政政策を承認した」と発表した事を背景にユーロ/円は買い優勢に転じた。さらに安く始まったNYダウ平均株価や原油価格がプラス圏に持ち直すと、ユーロ/円は110.26円まで反発した。(④)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は109.01円～111.01円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.5%の上昇(ユーロ高・円安)となった。先週19日にはドル/円相場が75.94円まで下落して戦後最安値を更新した事もあって、本邦当局による円売り介入への警戒感が広がっている。先週、世界的な株安と資源安が進む中でもユーロ/円が堅調に推移したのは、円売り介入への警戒感が一因と言えるだろう。今週も、ユーロ/円相場には方向感が出にくそうだ。米国では、景気減速懸念を背景に追加緩和観測が根強く、ドルが弱含みやすい地合いにある。一方、欧州はこれまでの景気回復をけん引してきた独経済に減速懸念が台頭しており、欧州中銀(ECB)が利上げスタンスを修正するとの見方もある。他方、消去法的に買い圧力がかかっていた円も介入観測で買いづらいとすれば、ドル・ユーロ・円の「三すくみ」状態となり、結果的にいずれの組み合わせでも方向感が出にくい事になる。ただし、26日に予定されている米ワイオミング州・ジャクソンホールでのシンポジウムで、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加緩和などの米景気下支え策を発表するとの期待がくすぶっており、こうした期待を背景に主要国の株価が堅調に推移するようなら、ユーロ/円にとっては上昇要因となるだろう。(神田)

(予想レンジ: 108.50～111.80円)

EUR/USD

ユーロ/ドル 8/15~19までの主な推移



<p>8/15 Monday</p>	<p>独首相報道官が「16日の独仏首脳会談でユーロ圏共同債は議題にならない」との見解を示すと、欧州ソブリン問題の早期解決に向けた期待が剥落しユーロ売りが優勢となった。しかしその後、NYダウ平均株価が堅調に推移する中、欧州中銀(ECB)が、先週の国債買い入れ額が220億ユーロに上ったと発表。昨年5月のプログラム開始以来最大規模の買い入れとなった事を好感して、ユーロ/ドルは1.4476ドルまで上昇した。(①)</p>
<p>8/16 Tuesday</p>	<p>独第2四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比+0.1%と予想(同+0.5%)を下回る伸びにとどまった事を受けて、ユーロ圏第2四半期GDP成長率は前期比+0.2%と前期の+0.8%から大きく減速した。これを嫌気して欧州株が下げ幅を拡大した事もあってユーロ/ドルは1.4353ドルまで下落。その後、独仏首脳会談後の共同会見で、サルコジ仏大統領が「ユーロを防衛する決意で独メルケル首相と一致」「ユーロ圏共通のガバナンスを提案する事で独首相と合意」などと述べた事を受けてユーロ/ドルは1.4470ドルまで上昇したものの、続けて「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の規模拡大は現時点で必要ない」と発言し、独メルケル首相が「ユーロ圏共同債は危機解決につながらない」と述べるとユーロ/ドルは再び反落した。(②)</p>
<p>8/17 Wednesday</p>	<p>スイス中銀が、スイスフラン高是正策として、スイスフラン供給量増大のために、為替スワップの利用や当座預金残高目標を引き上げる事を発表した。しかし、ユーロとのペッグ(連動)制や為替レートの目標ライン設定といった大胆な措置の発表を期待してスイスフラン売りが強まっていたため、発表直後には急激にユーロ売り・スイスフラン買いに傾いた。これにつれてユーロ/ドルは一時1.4324ドルまで下落したが、その後は、欧州株の下げ幅縮小やNYダウ平均株価の堅調推移を背景に1.4516ドルの高値まで反発した。(③)</p>
<p>8/19 Friday</p>	<p>アジア株に続き、欧州株が安く始めるとユーロ/ドルは1.4258ドルの安値を付けたが、レーン欧州委員が「欧州連合(EU)は欧州共同債で法案を作成する可能性がある」と発言した事や、サルガド・スペイン財務相が「スペイン政府は債務目標達成のための追加緊縮財政策を承認した」と発表した事を背景に買い優勢に転じた。さらに安く始まったNYダウ平均株価や原油価格がプラス圏に持ち直すと、ユーロ/ドルは1.4451ドルまで反発した。(④)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米連邦債務上限引き上げ問題の混迷
- ・米国の超低金利長期化観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・米連邦債務上限引き上げ合意観測
- ・ドル金利の先高観
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4258～1.4516ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.0%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。米国景気の減速懸念による追加緩和観測を背景としたドル売りと、ユーロ圏景気の減速懸念を背景としたユーロ売りが散見され、ユーロ/ドル相場の日足チャートは、陽線と陰線が交互に出現するという方向感に欠ける展開となった。今週も、ユーロ/ドル相場は方向感に欠ける展開が続くそうだ。26日に予定されている米ワイオミング州・ジャクソンホールでのシンポジウムで、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加緩和などの米景気下支え策に言及するとの観測が根強く、同日の米第2四半期国内総生産(GDP)は速報値から下方修正される見込みとなっている。ドル売りが強まりやすい地合いが続く一方、ユーロ圏では、域内景気を支えてきた独経済に減速懸念が台頭しており、欧州中銀(ECB)が利上げスタンスを修正するとの見方もある。23日の独8月ZEW景況感調査や24日の独8月IFO景況指数はいずれも前月から悪化が見込まれており、ユーロ売りも継続しそうだ。もっとも、バーナンキFRB議長の講演に向けて追加緩和期待が高まれば、先週大きく下落した主要国の株価が反発する可能性もあり、その場合はユーロ高・ドル安が進む事になるだろう。(神田)

(予想レンジ1.4200～1.4530ドル)

GBP/JPY

ポンド/円 8/15~19の主な推移



8/15 Monday	米国市場に入り、NYダウ平均株価が上昇したことや、欧州中銀(ECB)が、先週に過去最大規模の国債買い入れを行ったことが明らかになり、ユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れて上昇した(①)。
8/16 Tuesday	15時発表の独第2四半期国内総生産(GDP)・速報値が予想を大きく下回り、ユーロ/円が下落するとポンド/円は連れ安となった。しかし、17時30分発表の英7月消費者物価指数が前年比+4.4%と予想(+4.3%)を上回るとポンド/円は反発。ユーロ/円が下げていることにより一旦は上値が限られたが、米国市場中に行われた独仏首脳会談後の共同会見で、サルコジ仏大統領が「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の規模拡大は現時点で必要ない」、独メルケル首相が「ユーロ圏共同債は危機解決につながらない」などと述べた事を受けてユーロ/ポンドでユーロ安・ポンド高が進むと、ポンド/円でもポンド買いが強まり、一時126.44円まで値を上げた。(②)
8/17 Wednesday	17時30分に発表された英7月雇用統計は失業率が4.9%(予想:4.7%)、失業保険申請件数が3.71万件(予想:2.00万件)と予想よりも大幅に弱い結果だった上、同時発表のイングランド銀行(BOE)議事録において、前月まで0.25%の利上げを主張していた2人のメンバーが金利据え置き賛成に回ったことがポンド売り要因となり、ポンド/円は125.26円まで急落した。しかし、その後は欧州株の下げ幅縮小やNYダウ平均株価の堅調推移を背景に反発した(③)。
8/18 Thursday	17時30分発表の英7月小売売上高指数は前月比+0.2%と予想(+0.4%)よりも弱い結果になったが、ポンドの下げは一時的なものにとどまった。ただ、その後に欧州株が失速すると、ポンド/円は下落。さらに、23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀景況指数(予想:2.0、結果:-30.7)や米7月中古住宅販売件数(予想:490万件、結果:467万件)が予想を大幅に下回ったことを受けて米国株が大きく下げると、ポンド/円も125.65円まで値を下げた(④)。
8/19 Friday	ECBによるイタリア国債買い入れ実施観測などを背景にユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も上昇。さらに、安寄りしたNYダウ平均や原油価格が持ち直すとポンド/円は126.78円まで値を伸ばしたが、ウォール・ストリート・ジャーナルが中尾財務官の話として「頻繁に介入する計画はない」と報じたことを受けてドル/円が急落し、その後急反発する展開になると、ポンド/円も連れて乱高下した(⑤)。その後はNYダウ平均が再び下落に転じたことを受けて、弱含みの展開となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

今週の見通し

先週のポンド/円相場は124.80～126.98円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.8%の上昇(ポンド高・円安)となった。ポンド/ドルは約1.2%も上昇したものの、ドル/円はジリ安で推移した結果、ポンド/円の上昇は小幅なものにとどまった。

今週の為替市場では26日に米国のジャクソンホールで行われる米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の講演内容に注目が集まっている。同議長がここで量的緩和第3弾(QE3)を示唆する発言をするかどうか焦点となっており、これに関する思惑が今週の相場の方向感の鍵となりそうだ。QE3導入の可能性が高まるような観測が広がれば主要国株価が上昇し、ポンド/円も上昇すると考えられる。他方、QE3について様子見の姿勢を強めれば、失望感から主要国株価が下げ、ポンド/円には下落圧力が掛かりそうだ。ただ、全般的にポンドそのものの動きというよりは、ポンド/ドルやドル/円、ユーロ/ポンドなどの動きの綱引きの結果でポンドが動く局面が続いており、今週もそれら通貨ペアに比べてポンド/円はやや方向感が出にくい展開になる可能性がある。

ポンド/円チャートを見ると、先週は8月4日につけた今月高値130.80円から10日につけた今月安値123.30円の1/2戻しの水準でもある127.05円を超えると押し返される展開が続いていた。この上値の重さを払拭すれば、テクニカル上ではポンド/円の上昇に拍車がかかる可能性があると言える。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 124.50～129.00円)

GBP/USD

ポンド/ドル 8/15~19の主な推移



8/15 Monday	16時前にまとまったポンド売りが入り、1.6254ドルの安値をつけたが、すぐに反発。その後、NYダウ平均株価が上昇したことや、欧州中銀(ECB)が、先週に過去最大規模の国債買い入れを行ったことが明らかになり、ユーロ/ドルが上昇したことで、ポンド/ドルも連れて上昇。1.6407ドルまで値を上げた(①)。
8/16 Tuesday	15時発表の独第2四半期国内総生産(GDP)・速報値が予想を大きく下回り、ユーロ/ドルが下落するとポンド/ドルは連れて下落した。しかし、17時30分発表の英7月消費者物価指数が前年比+4.4%と予想(+4.3%)を上回るとポンドは反発。さらに、米国市場中に行われた独仏首脳会談後の共同会見で、サルコジ仏大統領が「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の規模拡大は現時点で必要ない」、独メルケル首相が「ユーロ圏共同債は危機解決につながらない」などと述べた事を受けてユーロ/ポンドでユーロ安・ポンド高が進むと、ポンド/ドルでもポンド買いが強まり、一時1.6475ドルまで値を上げた。(②)
8/17 Wednesday	17時30分に発表された英7月雇用統計は失業率が4.9%(予想:4.7%)、失業保険申請件数が3.71万件(予想:2.00万件)と予想よりも大幅に弱い結果だった上、同時発表のイングランド銀行(BOE)議事録において、前月まで0.25%の利上げを主張していた2人のメンバーが金利据え置き賛成に回ったことがポンド売り要因となり、ポンド/ドルは1.6347ドルまで急落した。しかし、その後は欧州株の下げ幅縮小やNYダウ平均株価の堅調推移を背景に反発した(③)。
8/18 Thursday	17時30分発表の英7月小売売上高指数は前月比+0.2%と予想(+0.4%)よりも弱い結果になったが、ポンドの下げは一時的なものにとどまった。ただ、その後に欧州株が失速すると、ポンド/ドルは下落。さらに、23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀景況指数(予想:2.0、結果:-30.7)や米7月中古住宅販売件数(予想:490万件、結果:467万件)が予想を大幅に下回ったことを受けて米国株が大きく下げると、ポンド/ドルも1.6418ドルまで値を下げた(④)。
8/19 Friday	ECBによるイタリア国債買い入れ実施観測などを背景にユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも上昇。さらに、安寄りしたNYダウ平均や原油価格が持ち直した上、対円でドル安が急激に進むと、ポンド/ドルは1.6616ドルまでドル安・ポンド高が進んだ(⑤)。ただ、その後再びNYダウ平均が下落に転じたことを受けてポンド/ドルは上げ幅を縮小する展開となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

今週の見通し

先週のポンド/ドル相場は1.6254～1.6616ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。英国の雇用統計や小売売上高指数は予想よりも弱い結果で、イングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録は前月よりもハト派的な内容に変化していたが、それよりも対ユーロでのポンドの動きやユーロ/ドルの動きが複雑に作用して結果的にポンド高・ドル安が進行した。

今週の英国では手掛かり材料視されそうな経済イベントは乏しい。一方、米国では26日にジャクソンホールで行われる米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の講演がある。昨年、このホールで行われた講演でバーナンキ議長が量的緩和第2弾(QE2)の用意があることを示唆したことや、現時点の米国経済に先行き不安がぬぐえず、さらなる景気刺激の必要性が指摘されつつあることから、「QE3導入の示唆があるのでは」との期待が広がっている。今週はこの講演についての思惑や、引き続き主要国株価の動きを手掛かりにポンド/ドル相場は取引されよう。QE3観測が強まったり、主要国株価が堅調に推移すれば、4月28日高値の1.6744ドルを試す流れになることもあり得る。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6250～1.6750ドル)

経済指標カレンダー (8/22~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/23	15:00		(スイス) 7月貿易収支	+17.7億CHF	—
(火)	18:00	◎	(独) 8月ZEW景況感調査	-15.1	-25.0
	18:00		(ユーロ圏) 8月ZEW景況感調査	-7.0	—
	21:30	○	(加) 6月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.6%
	23:00	○	(米) 7月新築住宅販売件数	31.2万件	31.5万件
			(米) 7月新築住宅販売件数 [前月比]	-1.0%	+1.0%
	23:00		(米) 8月リッチモンド連銀製造業指数	-1	-8
	23:00		(ユーロ圏) 8月消費者信頼感・速報	-11.2	-12.0
	26:00		(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
8/24	07:45	○	(NZ) 7月貿易収支	+2.30億NZD	—
(水)	17:00	◎	(独) 8月IFO景況指数	112.9	—
	17:00		(南ア) 7月消費者物価指数 [前年比]	+5.0%	—
		◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比]	-1.9%	+2.0%
	21:30	◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.4%	-0.5%
	23:00		(米) 6月住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	26:00		(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
8/25	15:00		(独) 9月GFK消費者信頼感調査	5.4	5.2
(木)	18:30		(南ア) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.4%	—
	21:30	◎	(米) 8/19までの週の新規失業保険申請件数	40.8万件	—
	26:00		(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—
8/26		○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比]	-0.4%	±0.0%
(金)	08:30	○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.2%	-0.2%
	17:00		(ユーロ圏) 7月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.1%	+2.2%
	17:30	○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.2%	+0.2%
		○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前年比]	+0.7%	+0.7%
	18:30		(スイス) 8月KOF先行指数	2.04	1.85
	21:30	○	(米) 第2四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.3%	+1.1%
	21:30	○	(米) 第2四半期個人消費・改定値 [前期比]	+0.1%	+0.2%
	22:55		(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数 ・確報値	54.9	56.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com